コラム

埋草賞第一回受賞者決まる

7月13日開催の編集委員会で，新たに設けられた埋草賞の受賞作品が決定した．

“埋草”という名は鉄と鋼誌にはどこにも見当たらないので，読者は不思議に思うかも知れない．これは解説や論文を掲載するとき，原稿の長さの関係で最後のページに広い余白が生ずる場合があり，それを埋めるために使う記事のことである．読者には「コラム」あるいは「統計」の名でお目にかかつているはずである．

埋草記事は編集委員に執筆の義務があり，半年に一編以上書かなければならない．ところがコラムになるような話や読者にすぐに役立つまとまつた統計は，それほど簡単に見つかるものではない．委員の多くは執筆担当のひと月の間，ネタ探しに頭を痛めることになる．そこでその労に報いるとともに，督戦の意味もこめて埋草賞が設けられることになつた．

埋草賞は半年間に一回，最優秀作品と多編執筆の委員を表彰する．賞品は「もつと勉強して下さい」というので，図書券が出される（次号からは一般会員にも投稿を求めることになりました．以下に投稿案内を掲載しますので奮つて応募下さい．

今回の受賞作はつぎの二点である．

コラム「Siitari-San」（原　富啓委員：日本鋼管）
Vol. 69 No. 9, p. 1136

コラム「珍答案と迷論文」（宮川大海主査：都立大）
Vol. 70 No. 2, p. 290

前者は米国の鉄鋼会社から交換研究員として来日のDr. Siitari と研究をともにした筆者の心温まる思い出を，後者は投稿論文の査読に長年たずさわつてきた筆者の苦労話が述べられていて，着想のユニークさが評価されたものである．

努力賞はこの期間3編を書いた唯一人の望月俊男委員（三菱製鋼）が受賞した．

埋草賞の設定を機に，読んで面白く役に立つコラムや統計の記事が増えるものと期待される．

（新日本製鉄(株)第三技術研究所　佐々木　稔
和文会誌分科会編集小委員会小委員長）

お知らせ

「鉄と鋼」埋草記事投稿のお勧め

本会会員はどなたでも会誌「鉄と鋼」にコラム，統計等の埋草記事を投稿することができますので，振つてご投稿下さるようお勧めいたします．

埋草記事は会誌の解説，論文等の余白頁に掲載いたします．

(埋草記事)　コラム，統計等

特に記事内容の定義はいたしませんが，何らかの形で本会会員に関心がもたれる内容であるものとします．

(記事の量)　所定の原稿用紙2枚（1000字）程度（会誌刷り上り 1/2 ページ程度）

(記事の掲載)　記事の掲載に当たつては，和文会誌分科会で査読をいたします．従つて，掲載にふさわしくないと判断された場合は返却することもありますのであらかじめご了承下さい．

なお，採用された記事については薄謝をさしあげます．

掲載された記事の中から，和文会誌分科会で優秀作品2～3件を半年ごとに選考し埋草賞をお贈りします．

編集後記

投稿原稿が鉄鋼協会に送付されてから本紙に掲載されるまでに何日ぐらいかかつているのだろうか？

掲載までの過程は，1）受理（事務局によるチェック）→2）校閲(その分野のスペシャリストに依頼)→3）査読（編集委員）→4）著者修正→5）（必要あれば）再校閲→6）再査読→（4)～6)の繰り返し）→7）編集委員会審議・掲載決定→8）印刷・ゲラ刷→9）著者校正→10）掲載である．

ここ一年間の実績では，受理から印刷まで平均約300日要している．このうち，最短は210日，最長は481日である．実に倍以上の違いである．

長くなる原因はどこにあるか？一つは上記4）の著者修正の日数オーバーである．3編のうち1編は修正指定日数をオーバーしている．最長は指定日数の約5倍もかかつている．もう一つは内容に問題が多く，従つて著者修正が1回では済まず，上記4)～6)が数回繰り返される（平均：1.4回）結果，所要日数が長くなることである．最多数回は4回で合計228日も要している．

長くなる原因はこの他にも，審査に多少時間のかかる場合などがあるが，しかし上述のように，投稿から掲載までの所要日数は，その原稿の内容のよしあしも含めて，著者次第でかなりの幅でもつて短くもなり長くもなるといえよう．　(Y.H.)